

北海道剣淵高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和3年度に重点化する取組及び具体的方策		
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1) 毎時間の農業学習について、明確な目標を打ちだし、個々の生徒がやるべき内容を把握させる。	A	(1) 授業担当者は、授業前に目標(目的)を生徒に確実に伝える。
	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1) 剣淵町の姉妹都市であるペルー共和国タルマ市の特産物キヌアの栽培を通して、世界に目を向けた学習を展開。	A	(1) 作物の授業において実際にキヌアを栽培し、食文化や活用について学習する。
II 地域社会・産業に 寄与する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1) 町の特産物であるジャガイモやマメ類を栽培し、地域の理解と栽培過程を学習。 (2) キヌアの認知度UPを図る教育活動の展開。	A B	(1) 特産物栽培を実際に行い、播種から収穫までの作業体系を体験し、理解を深める。 (2) 実際にキヌアを学校圃場で栽培し、キヌアの整理生態を学習する。
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1) 2年次における町内農家委託実習、3年次における産業現場実習を実施し、地域産業の仕事に従事することで、地場産業の理解に努める。	A	(1) 2年次農家委託実習5日間、3年次産業現場実習5日間において、農業や地域関連産業に従事することで職業理解や仕事内容の重要性を理解する。
III 地球環境を守り 創造する学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1) 温室栽培における冬季のハウス施設の暖房を節約(灯油の使用を抑制)。 (2) プロジェクト学習における循環型農業の推進に努める。	B B	(1) 低温でも栽培できる植物を選択し、灯油使用料を極力制御する。 (2) 廃棄された地域資源の有効活用を目指すプロジェクト活動を実践。
	⑥「食農」教育を推進します。	(1) 農業教育の中で、栽培された農産物を実際に食することで、もののありがたみや食料を生産する重要性を理解させる。 (2) 小・中学校との連携授業において食育学習を実施。	A A	(1) 秋の収穫時には、栽培された農産物を実際に食する。農業の果たす役割や食を提供する素晴らしさを教授する。 (2) 連携学習で食の重要性を教授する。
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1) 絵本の里ならではの取り組みとして、絵本を教材とした学習の展開を図り、情操教育に繋がった取り組みを実施する。	B	(1) 絵本の読み聞かせなどを通して得られる教育力を見つけ出し、主体的にそれらを活用する取り組みの実践。
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1) コロナ禍で難しいが、できるだけ学校で生産された農産物や加工品の販売を実施し、本校の教育活動を理解していただく。また、生徒と地域とのコミュニケーションの場として活動を展開。	A	(1) 販売会ごとに希望生徒を募り、実際に生徒が生産した農産物を販売する。地域交流の拠点の場としてコミュニケーション能力を高める。
V 地域防災を推進 する学校	⑨「機関・団体と連携した」教育を行います。	(1) 農業関連団体や施設への視察を実施し、農業関連産業の理解を深めさせる。	A	(1) 近隣の市町村等で活躍されている農業関連団体や施設等へ訪問し、地域農業への理解と興味関心を高めるような取り組みを実施する。
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います	(1) 定期的に防火査察を実施し、日頃から防災意識を高める。	A	(1) 毎月1回必ず防火査察を実施し、万が一に備えた防災教育を推進する。